



小林修 写真展

osamu kobayashi photo exhibition

2026
4.25_[土]-5.31_[日]
長崎歴史文化博物館 3階企画展示室

会期：2026年4月25日（土）～5月31日（日）

休館日：5月7日（木）、18日（月）

営業時間：9:00～18:00（最終入館30分前）

料金：一般【大学生以上】800円（前売り600円）

※高校生以下・長崎れきぶん友の会・キャンパスメンバーズ無料

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳、障害福祉サービス受給者証、地域相談支援受給者証、特定疾患医療受給者証、特定医療費（指定難病）医療受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証保持者とその介護者1名は前売料金

【前売券取扱窓口】（4/24まで）チケットぴあ（Pコード：687-447）、ローソンチケット（Lコード：81820）、セブンチケット（セブンコード：115-073）、紀伊國屋書店長崎店（夢彩都）、メトロ書店本店（アミュプラザ長崎）

主催：長崎歴史文化博物館 特別協力：公益財団法人 司馬遼太郎記念財団

協力：朝日新聞出版、カトリック長崎大司教区 監修：村井重俊（元週刊朝日編集委員） 後援：長崎県、長崎市、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、長崎県立長崎図書館、長崎市立図書館、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、共同通信社長崎支局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、長崎ケーブルメディア、エフエム長崎、長崎商工会議所、長崎県タクシー協会、長崎県観光連盟、長崎国際観光コンベンション協会


長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

歩いた風土、見抜いた時代

没後30年
司馬遼太郎の記憶
memories of ryotaro shiba

没後30年 司馬遼太郎の記憶 小林修写真展

司馬さんが伝えようとした言葉とシンクロする、
普遍性を持った風景に出会う瞬間があるのだ。 小林 修

『竜馬がゆく』『燃えよ剣』『坂の上の雲』など、多くのベストセラーを残した作家の司馬遼太郎(1923~96)さんが世を去り、2026年は没後30年にあたります。今回の写真展ではその作品世界を表現した約180点が展示されています。撮影者の小林修は『週刊朝日』や隔月刊誌『歴史道』(朝日新聞出版)で司馬作品をテーマに写真を20年撮り続けてきました。しかし、現代で歴史を感じる風景には会うのは至難の技ともいえます。小林は自分の仕事を振り返り語っています。「司馬さんは風景を描写するとき、土地が持つ長い歴史や風土への深い知識をもとに表現しています。それを頼りに現場で雨風に吹かれ、射し込む光りを待っていると、日常から歴史を超えた風景が立ち上がってくる時がある。司馬さんの言葉とシンクロし、普遍性を持った風景に出会う瞬間があります」。

写真展では「街道をゆく」「幕末維新」「戦国時代」「坂の上の雲」「宗教」「この国のかたち・風塵抄」、そして「長崎」などのコーナーに分かれています。司馬さんは『竜馬がゆく』『胡蝶の夢』『韃靼疾風録』、そして『街道をゆく』3街道で長崎を舞台に選んでいます。「司馬さんは鎖国時代の長崎について、〈針でついたような小さな孔(あな)だった〉と書かれています。世界をのぞくことのできるピンフォールの役割を果たした。世界を知るには長崎にいくのがいちばんで、竜馬にとって長崎は希望の町でした」司馬さんの思い入れの深かった「長崎」に、戦国や幕末、そして宗教などの角度から写真でアプローチしています。作品を思い出しつつ、お楽しみ下さい。

村井重俊(元週刊朝日編集委員)



奈良・若草山



ゴビ砂漠(モンゴル)



風頭公園



ナーダム(モンゴル)



東京上空



変面

小林 修 こばやし おさむ

1966年生まれ。1990年、立教大学英米文学科卒業。同年、朝日新聞社に入社。出版写真部で「アサヒグラフ」「週刊朝日」などの撮影を担当。主な展覧会に「司馬遼太郎さんの歩いた道」展(画家・安野光雅氏との二人展、新宿紀伊國屋書店・丸善丸の内店、2007年)、「小林修写真展『街道をゆく』の視点」(フジフィルムスクエア東京、2019年・姫路文学館、2023年)、「小林修写真展司馬遼太郎『坂の上の雲』の視点」(坂の上の雲ミュージアム、2022年)など。写真集に「司馬遼太郎『街道をゆく』の視点」(朝日新聞出版)、「司馬遼太郎『坂の上の雲』の視点」(同)。2003年、2017年、2018年、2019年、日本雑誌写真記者会賞最優秀賞を受賞。現在、朝日新聞出版写真映像部長。

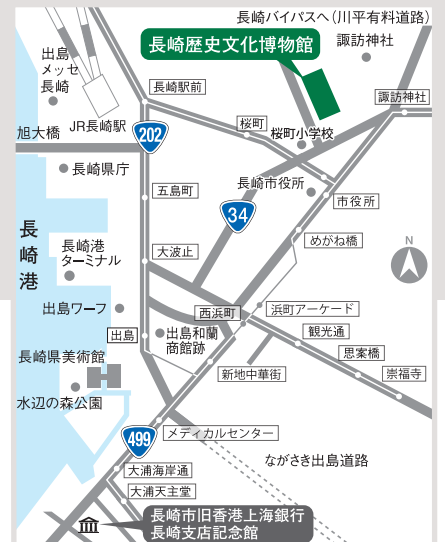
講演会

撮りながら考えた司馬遼太郎

5月9日(土)14:00~15:30

| 会場 | 1階ホール | 定員 | 140名(先着順・事前申込不要)
| 講師 | 村井重俊氏(元週刊朝日編集委員、『街道をゆく』担当)
小林 修氏(朝日新聞出版写真映像部)

(後援)長崎県、長崎市、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、長崎県立長崎図書館、長崎市立図書館、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、共同通信社長崎支局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、長崎ケーブルメディア、エフエム長崎、長崎商工会議所、長崎県タクシー協会、長崎県観光連盟、長崎国際観光コンベンション協会



路面電車「桜町」電停下車、徒歩5分。
路面電車「市役所」電停下車、徒歩7分。
路線バス「歴史文化博物館」バス停下車、徒歩3分。
長崎自動車道(長崎芒塚IC)より、諏訪神社方面へ10分。
(表面写真)黒崎教会(長崎市上黒崎町)

長崎歴史文化博物館 〒850-0007 長崎市立山1-1-1 TEL.095-818-8366 <https://www.nmhc.jp>